

一言会 30年のあゆみ



東京都墨田区 一言会を防災のまちにする会 事務局長 佐原 滋元

私どものまち「東京都墨田区向島地域」は、都心の東、隅田川と荒川に囲まれた、沖積層が厚い軟弱な地盤のデルタ地域にあります。



防災区画配置図

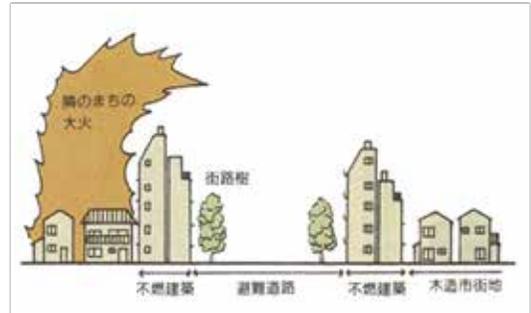
昭和40年代に新潟大地震の経験から、デルタ地域の防災が検討されることになりました。軟弱地盤上の木造密集地域の住民の命を救い、火災から

避難した住民を守るため、防災団地や広大な避難緑地を建設することになり、まちの隣には、このような考え方で作られた東白鬚防災団地が完成しました。しかし、その周辺地域の防災対策はほとんどが手つかずの状態でした。

このようなまちに、大通りの沿道を不燃化し、大通りを越える火災を防いでいこうという、「防災生活圏」という考え方が出されました。大通りの内側では、住宅の建て替えに応じて不燃化と耐震化を徐々に進め、細街路も徐々に拡幅して、安全なまちに変えていくことにしています。

1985年(昭和60)、明治通りと水戸街道、桜橋通りと隅田川で区画された、私どものまちがこの「防災生活圏」の東京都モデル事業地域に指定されました。墨田区

ではこの事業を行政だけではなく、地域住民とともに進めることにし、「防災まちづくり瓦版第一号」で住民の参加を呼びかけました。最初は地域住民の有志の会



防災区画様式図

「わいわい会」として発足し、課題や夢を語っていましたが、事業をすすめるにあたり、より地域コミュニティーとの連携が必要とされ、地域内の6町会とわいわい会で構成する「一言会を防災のまちにする会(通称 一言会)」へと発展しました。



協同建替ワークショップ

しかし、関東大震災後、急激に住民が増加したこの地域では、借地借家などの権利が複雑に重なり、区画整理のような、一括的なまちの改変が難しいまちでした。

そこで、主に啓蒙的な活動を重視し、居住者自らが徐々に耐震・不燃、細街路拡張等を進めていく、「修復型まちづくり」に取り組むことにしました。また、「災害が起きたときに一番大切なことは隣近所で協力すること」と言われ、下町情緒が残ると言われる私たちのまちには、まだこのような近隣関係が残っています。しかし将来、道が広がり防火扉が完備したまちでも、このような近隣関係を保つことができるのか、危惧されました。

このような中で生まれたのが「路地尊」と呼ばれるストリートファニチャーです。



路地尊 5号基 (広場名 はとほっと)

命名にあたっては「路地で培われた隣近所関係を尊ぼう」という気持ちが込められています。この他にも避難時に活用される街路の修景やポケット広場の整備をおこないましたが、計画の段階から隣近住民と進めることにより、完成後も施設の維持管理について、地域の皆さんが見守っていただいています。



路地尊 2号基



寝具転倒防止を学ぶ子ども達

このような活動を進めて10年目に「防災まちづくり大賞」というご褒美をいただきました。

その後、調査活動等の活動を継続的に進めて来ましたが、このような活動の中から、子ども達の防災意識を育てようと、2009年(平成21年)から「イザ!カエルキャラバン!」を実施してきました。持ち寄ったおもちゃの換えっこをしながら楽しく防災知識を体験しようとするイベントです。毎回、地元の消防団を初め、地域を元気にしようと頑張る様々なグループとともに企画・実施をしています。また、近年では、空き家が目立ち始めたまちの中で、近隣が協同して建て替える計画を地主さんとも考えています。



ジャッキアップを学ぶ子ども

昨年、一言会が発足して30周年の記念イベントを開催しました。他地域の先進的な取り組みなどもうかがいながら、一言会の将来(当初100年後を目指すまちづくりを考えました)に向けさらに活動を進めていきたいと決意を新たにしたいところでございます。